

最近の主な収集（採集）資料の紹介

スフェノセラムス・シュミッティ（イノセラムス科二枚貝）



2013年に採集された
スフェノセラムス・シュミッティ

5 cm

学名：*Sphenoceras schmidti*

スフェノセラムス・シュミッティ

時代：白亜紀カンパニアン期前期

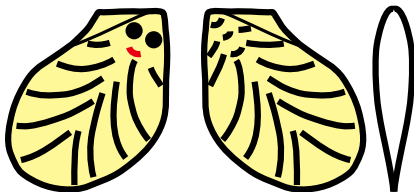
産地：むかわ町穂別富内

採集：穂別博物館職員、2013年

スフェノセラムス・シュミッティは、双斜（そうしゃ）状の殻装飾をもつイノセラムス科二枚貝で北西太平洋地域の上部白亜系カンパニアン階の示準化石として、また、**しゅみっとたん**（いのせらたんの一種）のモデルとして知られる有名な種類です。

穂別地域で、この種が産することは1940年代から知られていましたが、これまでは、断片的な標本のみが知られていました。写真下のスフェノセラムス・シュミッティ密集標本は、多数の標本が密集しているすばらしい標本として、研究者には広く知られていましたが、各個体は破片ばかりだったので、何の化石なのか理解されないことも多かったようです。

今回採集した標本は、穂別地域から初めて産した右殻（うかく）全体が保存された標本で、この種の最大級の大きさの標本です。穂別産のものとしては、今のところスフェノセラムス・シュミッティの全体の形を理解できる唯一の標本で、保存状態の良いものです。



しゅみっとたん

モデル：スフェノセラムス・シュミッティ

Sphenoceras schmidti

名前の由来：Schmidt ロシアの古生物学者

F. B. シュミット [人名]



20 cm

常設展示室のスフェノセラムス・シュミッティ
密集標本（1990年代に採集）



しゅみっとたんぬいぐるみと共に常設展示に加えました。

スフェノセラムス・ヘトナイアヌス（イノセラムス科二枚貝）

学名：*Sphenoceras hetonaianus*

スフェノセラムス・ヘトナイアヌス

産地：むかわ町穂別富内

時代：白亜紀マーストリヒチアン期前期

採集：穂別博物館職員、2012～2013年

スフェノセラムス・ヘトナイアヌスは小型、左右等殻、最大成長方向が斜め後で、全体がひし形、殻装飾のほとんどが共心円肋（きょうしんえんろく）などの特徴をもつイノセラムス科二枚貝で、日本の最上部白亜系マーストリヒチアン階の示準化石として、また、**へとないたん**（いのせうたんの一種）のモデルとして知られる有名な種類です。学名は穂別富内（とみうち）の旧称；辺富内（へとない）に由来しています。中頓別町からもたくさん産出しますが、標本の大半が穂別地域産のものです。穂別地域産のものは、九州大学に15個体（1930年代に採集）、穂別博物館に82個体（1980年代～1990年に採集）が収蔵されています。

近年の穂別博物館の調査で新産地を含む穂別地域各地から20個体ほどを新たに採集しました。その中で、種の記載に用いられた模式標本が産した露頭（模式地）から標本を発見しました。この模式地から標本が発見されたのは、76年ぶりのことだと思われます。模式地産の標本は、種内変異を調べるなどの分類学的研究を行うために重要なので、とりあえず採りつくしておきました。

学芸員 西村智弘

新産地のもの

模式地のもの



5 cm

2012～2013年に採集された標本の一部。クリーニング中のものも含む。



へとないたん

モデル：スフェノセラムス・ヘトナイアヌス

Sphenoceras hetonaianus

名前の由来：Hetonai 穂別富内（とみうち）

の旧称 辺富内（へとない）[地名]

[アクセス]



開館時間 9：30～17：00（最終入館 16：30）

入館料 個人 / 小～高校生：100円

大人 300円

団体 / 小～高校生：50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

6月

2(月) 9(月)

16(月) 23(月)

30(月)

7・8月は無休

町民無料観覧日

7月15日(火)～

7月21日(月・祝)

(7/20開館記念日関連事業)